

## 第9回 第二期武蔵野市コミュニティ評価委員会

■日 時：平成18年1月16日（月）19：00～21：30

■会 場：市役所 607会議室

■出席委員：玉野委員長、小原副委員長、荒川委員、原委員、皆川委員、南條委員

■武蔵野市：事務局 市民活動センター所長ほか3名

### 1. 委員自己紹介

昨年12月21日付で人事異動があり、南條和行企画政策室長がコミュニティ評価委員になったので、各委員自己紹介をした。

### 2. 「コミュニティ評価のまとめ」について

#### (1) 報告書の内容について

【委員長】報告書の全体の体裁だが、「はじめに」、次に「第一期の検証と第二期コミュニティ評価」という形で、今回こういうやり方をしたという経緯を書く。その次の「共通課題」だが、自己点検・評価表の「1. 運営の参加」「2. 企画の革新性」「3. 利用の配慮」「4. 法規の遵守」「5. 目標と成果」の項目ごとで全体的な評価を書いていくことになるだろう。「5. 目標と成果」を含めるかどうかは難しいところである。「各コミュニティ協議会の評価と課題」は今日の話し合いを受けて、各担当者に書いていただく。

また、資料の載せ方だが、自己点検・評価表の原文のまま載せるべきか、それとも何らかの加工をすべきか、コミュニティセンター利用実績一覧の資料も含めて、どのようにしたらいいかご意見をいただければと思う。

各コミュニティ協議会としては、自己点検・評価表をそのまま載せることについてどうなのか。

【委員】あくまで自己評価なので、それは載せた方がいいかと思う。

【委員長】載せるとなると一般市民にも公開するということまで踏み込むことになる。

【委員】コミュニティ協議会の方も、多分、一般市民の目に触れるだろうというのがあり、遠慮っぽい自己評価になっている。

【委員】前回、各コミュニティ協議会の自己点検・評価表は報告書に載せなかったもので、それぞれのコミュニティのことをこの報告書で見るとは「評価と課題」の部分だけであった。それでは何となく不満があるという意見はあった。

【委員】「評価と課題」で各コミュニティ協議会の状況はすべて出る。自己点検・評価表までは載せる必要はないのではないか。むしろ、各コミュニティ協議会のそれぞれの状況が載っている利用実績は載せていいのではないか。

【委員長】コミュニティ協議会には「自己点検・評価表をそのまま載せるがどうだろうか」と話し、最終的なものをまとめてほしいという形で了解をとれば問題はないかな

と思う。ただ、これをそのまま載せるか、整理したものを載せた方がわかりやすいのか。

【委員】自己点検・評価表は基本的に自己点検で、オープンにしていいものであれば、オープンにした方がいいと思う。ただ、膨大な量なので少し工夫が必要だと思う。

【委員】各コミュニティ協議会から出された自己点検・評価表を整理した一覧表があったが、自由記述のところがわかりやすいし、他のコミュニティ協議会の様子もわかるのですごくいいなと思う。

【委員長】そうしたら、「目標と成果」以外の項目は以前まとめた程度のものを公表しようと思うが、この表現でいいかどうかを、「目標と成果」については基本的な協議会の姿勢がわかるので、そのまま載せたいということで確認してもらう。

コミュニティセンター利用実績一覧のような資料を載せるかということだが、利用が少ないところもあれば多いところもある中、事情があって少ないのに、こういう資料だけが市民に公表されてしまうといろいろ言われてしまうということを危惧する声が多かったことは、以前から気になっている。載せるなら何かコメントもつけて、こういう傾向、こういう事情があってこうなのだという簡単なことは入れておかなければと思う。

【委員】基本的には稼働率は、どこも頑張って上げていく方がいい。

【委員長】稼働率が高いにもかかわらず人数が少ないのは、小型館という事情があるというような注釈がないと気の毒かなと思うのだが、その辺いかがか。

【委員】コミュニティ協議会の人たちが見ればわかるが、市民の方は数字だけ見て判断すると思う。やはり何となく心外だなというのは協議会の中にはあるかもしれない。

【委員】逆に、言われた時に、各々のコミュニティ協議会が説明できればいいと思う。

【事務局】数字だけを見ると利用が多くないように見えるが、実はフリーの利用が非常に多いというコミセンもあり、数字的に出ないところがあるので、コメントを載せていただければと思う。

【委員長】場所や位置などの地図は改めて入れなくてもいいのか。

【委員】16コミセンあるが、市民は知らない方が結構多い。他にもそのような内容の資料はあるが、例えば、桜堤・吉祥寺東・八幡町コミセンは小型館であるぐらいのことはわかるといい。

【委員長】評価委員会の報告書を市民へのPR用に使うぐらいの利用の仕方もあっていいと思う。事務局から提案があったが、この後2年間、18年度、19年度は市としての評価活動は休止して、コミュニティ協議会の皆さんが自主的な評価活動をしていく形で活動するとしたら、協議会が市民に説明しながらやっていくという意味でこれを使うとするならば、概要も一緒に付録につけておいた方が便利である。

【委員】概要だけの資料もあるのだが、その幾つかをここの中に載せることは、いろんな意味で必要だと思う。

【委員】各協議会の活動というのは、館の中だけではなくて、いろいろ地域社会に貢献していくという役割もあるが、その辺を表す資料はないのか。

【委員】自由記述の部分でしか「自分たちの協議会はこういう方針です」と言えないので、自由記述である「目標と成果」は出した方がいいかなという気がする。

【委員長】報告書の「はじめに」というところで、一般的な武蔵野市のコミュニティについては触れられると思う。市民の方がこれを読んだ時に、武蔵野市のコミュニティとはこういうもので、こういう活動をしていて、こういう評価、結果があって、稼働率はこうでというのが見えるものにできればいいのではないかな。こういう趣旨で始まり、こういうものでやっているということを私の方で少し入れる形で行なう。

## (2) コミュニティ評価の今後のあり方について

【委員長】コミュニティ評価の今後のあり方について、そういう方向もあり得ることが自然に繋がるようならば、今回の報告書の中で少し触れてもいいのかなという気はする。事務局が提案した、18年度、19年度は市としての評価委員会活動は休止して、コミュニティ協議会の自主的な評価活動や、第二期評価を踏まえた上での事業化の期間として、それぞれの自己点検は継続していただき、20年度、21年度で第三期コミュニティ評価活動をやっていくということについてはいかがか。

【委員】基本的にこの案でいいと思う。今回の評価項目は総体的によいものができているので、各協議会の運営委員会などで列挙し合い「自分たちのコミュニティはどういうコミュニティなのか」ということを今後も話し合っていく必要があるのではないかな。お互いに反省し合いながら、より前進していくという時期に来ているのかなと感じる。

【委員】コミュニティに長く携わっている立場からすると、その時にその地域に起こっている問題がある時もあれば、ない時もある。それに取り組もうという気持ちにみんながなる時もあれば、ならない時もある。あらゆるそういう可能性の中で、その時々に見えることを精一杯にやる、自分たちが今やっていることをわかってくださいと自分たちの地域に向かって発信できれば、波は仕方がない。そうでないと、全部ボランティアでやっているのだから、絶えずこういうことにも取り組むべきだとか高い水準を維持しろと言われるとくたびれてしまう気がする。絶えずやっているよりは、今回の自己点検・評価表をじっくり読んで、自分たちのことをもう1回振り返り、参考になるところはお互いに参考にし合ってくださいという意味で、2年間休むことは意味があるかなと思う。

【委員長】評価活動を4年間やってきたが、第一期は、自己評価をやるということが、協議会自身にとってどうかということを決めることが精一杯で、とりあえずそれが受け入れられたというのが最大の成果だったと思っている。第二期は、基本的に外部の者が十分な視察もできないことはわかりながらも係わって、外からいろいろ言ったことで、動きが出てきたなというところは幾つか感じる。そういう意味では、評価委員

として入って、活動して、ある種の刺激を与えることはできたのかなという感じはある。では、もう1回やってどうかと考えると、外部からの刺激があつて、とらえ直して何かやった時に、その成果を少し見る期間が要るかなという気はする。また、この2年間で出てきた新しい根がどこまで育ったかを検証できるようなことがあつた方がいいかなと思う。事務局からの提案も悪くはないと思うが、今の委員会として言うべきことかどうかはわからない。むしろ行政として判断していただければと思う。

【委員】各協議会が、今、委員長がおっしゃったことをきちんと受けとめられるような状況になれば本当にいいと思う。自分たちの活動を見直す期間として2年間を設けるのはいいと思う。

【委員長】コミュニティ研究連絡協議会の特別委員会のような形で、委員自体をコミュニティ協議会から選んで行なうという考え方もあると思う。自己点検、自己評価の活動をそこが中心にやっていくということは十分考えていいと思う。最終的には、市民の方が委員になれば、日常的に運営委員会なり活動を傍聴しながら、それで市民の方もそれを機会にコミュニティ協議会の活動を知って、理解を深めていくような評価活動になるのが一番理想的かなという気がした。もちろん専門家が定期的な外部の見方で考えていくということも必要だが、協議会で自己点検、自己評価活動を独自にやってみるような機関や、市民公募の人が視察をして話し合う機関もあつてもいい。いろいろ工夫していったいいかなと思う。

【委員】委員長は、第一期の評価委員会の時に「コミュニティ活動というのは、自治会活動的要素があるのですよ」ということを言われている。今まではもちつきや文化祭などを中心にやっていた協議会が「地域住民のために何かやっていかななくては。私らの存在というのは、その辺も必要なのだ。」と感じ始めた。それが生かされているのだなと思った。それぞれが2年間の中で自己反省しながら、それぞれの協議会の充実した活動に向けていくような時間、場があつてもいいのではないかなと思う。

【委員】評価委員会というのは条例で決まっているので、ある程度の期間がたったら、当然評価をして、公表せざるを得ないと思う。ある一定期間をこの報告書をもとに各協議会で論議され、活動に生かしていただきたい。

【委員長】本日の議論を踏まえ、こういう経緯でやってきて、こういうふうな結果だと評価している、考えているという中で、熟成の期間をもったらどうかということも含め、私の方で整理させていただくということでご了承いただきたい。

### **(3) 各コミュニティ協議会の「評価と課題」について**

\*各委員から提出された担当コミュニティ協議会のコメントの内容を確認しながら、「評価と課題」について議論した。

【委員長】今、確認した内容で各コミュニティ協議会の「評価と課題」を考えていただき、まとめていただきたい。